様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２６ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５２８５２１３

研究課題名（和文）教育と福祉のドラマトゥルギー

研究課題名（英文）Dramaturgy of Education and Welfare

研究代表者
藤川　信夫（Fujikawa, Nobuo）

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：１０２１２１８５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,300,000円

研究成果の概要（和文）：本共同研究プロジェクトでは、①E. ゴッフマンが初期の著作群において提示したドラマトゥルギーの手法をもとにして共通の方法論・観点（動的ドラマトゥルギー）を練り上げた。②個々のメンバーが、この方法論・観点を用い、児童自立支援、特別支援教育、心理臨床、看護師養成、学校教育、大学教育、高齢者福祉、美術館での展示、障がい者のためのリハビリテーション、地域文化活動、舞台俳優養成などの個々の活動領域における相互行為を対象として分析・考察を行った。そして③その個別事例研究の成果を相互に比較・対照し、それらの相互行為間の類似性と差異を明らかにすることで、教育や福祉と呼ばれる相互行為の特質を再考した。

研究成果の概要（英文）：In this joint research we developed (1) a common methodology/viewpoint (dynamic dramaturgy) based on the dramaturgical method presented in E. Goffman's early books. (2) Each research member employed this methodology to analyze and inquire into interactions taking place in such fields as child self-support, education for handicapped children, psychotherapy, nurse education, school education, higher education, care for the old, art museum exhibitions, rehabilitation for handicapped, local cultural activity, actor training etc. (3) In comparing the results of these case studies, we identified similarities and differences between the interactions allowing us to reconsider the characteristics of the interactions of education or welfare.

研究分野：教育人間学

キーワード：ドラマトゥルギー　特別支援教育　児童自立支援　高齢者介護福祉　看護師養成　心理療法　俳優養成

１．研究開始当初の背景

50 年代末にアメリカの社会学者･人類学者、アーヴィン・ゴッフマン（Erving Goffman 1922-1982）が提示したドラマトゥルギーの理論は例えばアメリカの R. シェクナーによって継承発展され、その後全米の多くの大学で「パフォーマンス学」やこれに類する講義がもたれるようになっており、またその応用として、医療・福祉・教育・企業経営といった多様な職業・実践領域におけるパフォーマンス指導も広く行われるに至っている。わが国でも、1980 年代後半以降、教育もしくは福祉を対象とし、ゴッフマンの観点を採用するか、もしくはこれに言及した先行研究が現れてきた。これらの先行研究によって、ゴッフマンの観点の有効性はすでに証明されていると言える。しかし、教育と福祉の双方を人の一生という観点から一体のものとして追究する試みは、管見の限り存在していない。また、ゴッフマンの研究関心が、相互行為秩序を攪乱する様々な事件にもかかわらずその秩序が維持されるメカニズムの解明にあったため、概ね上記の諸研究においても同様の傾向が見られる。それに対し、本プロジェクトでは、同じ場に成立する複数の「舞台」が相互に対立、重層化したり、一方が他方を同化したりするなどのダイナミックなプロセスに着目し、既存の相互行為の秩序が崩壊したり、そこから新たな秩序が生成する様子をも解明した。さらに本研究では、認知症高齢者の妄想世界やネット上のヴァーチャル空間などの非物質的（意味的）舞台における相互行為をも対象とした。これらの点に、ゴッフマンのドラマトゥルギーの限界を超えていく本プロジェクトの特徴がある。

２．研究の目的

本プロジェクトは、ゴッフマンの『行為と演技』（1959）をはじめとする初期の著作で展開されたドラマトゥルギー（舞台論）を共通の暫定的・理論的出発点とし、フィールド研究において、教育や福祉の実践に見られる日常的相互行為の場を「舞台」に、また、そこで行われる相互行為を「芝居」に見立てて、それらの構造・機能・意味の特質を分析することを目的とする。さらに、本プロジェクトは、教育や福祉の各活動領域における相互行為を巡る個別問題の解決策を教育者や介護（助）者自身が見出すことを支援できるような実践的研究のための方法論の確立を目指すものである。その意味で、本プロジェクトの実施は、その方法論の有効性を実証する場でもある。

３．研究の方法

本研究では、①理論研究として、ゴッフマンの著作・論文をはじめ、パフォーマンスないしドラマトゥルギーに関連する二次資料を共同で読み進めた。それと並行して、②実践研究として、各メンバーが研究・調査の対象となる教育、看護、福祉の諸領域においてフィールド研究（インタビュー、参与観察および実践家自身による分析）を行った。フィールド研究においては、ドラマトゥルギーを共通の観点として採用した。さらに、③実践研究の成果を持ち寄り、各実践領域における相互行為の比較を行った。この共同研究メンバーによる討議においては、その討議の場を「入会地」として特徴づけ、「誰もが成果を持ち込み持ち帰ることができるが、誰もこの討議を単独支配することができない」というルールによって運営を行った。さらに、実践研究の成果を順次英訳し、1 年目と 2 年目には、パフォーマンス研究で実績のあるベルリン自由大学・歴史的人間学学際センターのクリストフ・ヴルフ教授及びグンター・ゲバウアー教授を訪ね、両教授との間で事前打ち合わせを綿密に行った。その上で、最終年度には両氏を大阪大学に招き、公開で国際シンポジウムを開催した。以上により、④以上の個別研究の成果を相互に絡み合わせ、人生全体にわたる人間形成過程を対象とする実践的研究のための理論の構築を行った。

なお、科研費による研究の開始に至るまでの助走段階における成果（論文集草稿）については、初年度に開催した討議の場で、論文集としての一貫性及び共同研究の継続発展の観点から、内容面での補足と論文構成の修正等の必要等について討議し、その成果を踏まえて編集作業を行った。同様に、研究期間中に新たに行った実践研究の成果については、学会、雑誌・紀要等での発表を行うとともに、上記と同様の観点から論文集としての出版に向け討議を行った。目下、その成果を総括する形で編集作業を行っているところである。

４．研究成果

研究開始前から初年度に至る研究の成果は、論文集『教育／福祉という舞台―動的ドラマトゥルギーの試み』（2014）として出版した。また、科研費による研究開始後の成果についても論文集『動的ドラマトゥルギーの展開』（仮題）として出版する計画である（出版計画は、研究代表者が所属する大阪大学大学院人間科学研究科における審査の結果、研究科長裁量経費から出版費の一部の補助を受けることが決定している。また、出版後改めて研究成果として提出予定である）。各論文集には、以下の個別事例研究の成果を収録した（あるいは収録予定である）。

（１）『教育／福祉という舞台』に所収の研究成果について

①「教育と福祉の動的ドラマトゥルギー―理論と実践、教育と福祉を繋ぐ新たな可能性」（藤川信夫）

②「教育と福祉の類似性―高齢者福祉における〈一人前の演技者であるかのように扱うこと〉に着目して」（京極重智）

③「ドラマトゥルギーの観点から見る認知症高齢者と介護福祉士―〈日常舞台〉と〈特養舞台〉の対立に着目して」（京極重智・江川美由紀）
④「児童自立支援施設のドラマトゥルギー―Ａ学園の運動会を巡って」（藤田雄飛）
⑤「Ａ学園運動会における参与観察―内部からの眺め、そして参与観察のドラマトゥルギー」（高田俊輔）
⑥「大学授業のドラマトゥルギー―自己分析と自己評価の可能性」（佐々木暢子）
⑦「〈意のままにならない身体〉との相互行為―文楽における身体言語を手がかりにして」（河合翔）
⑧「仮想空間における相互行為－Twitter 上のクラスタに関するドラマトゥルギー的考察」（上田慶祐）
⑨「美術館の動的ドラマトゥルギー―会田誠展を契機とする舞台間闘争」（渡川智子）
⑩そしてこの論文集の末尾（藤川信夫）では、①から⑨までの成果を総括した。

（２）『動的ドラマトゥルギーの展開』（仮題）
①「動的ドラマトゥルギーの展開」（藤川信夫）
②「ミメーシスと儀礼のプロセスにおける身体知の創造」（クリストフ・ヴルフ）
③「ゴッフマンの演劇的行為の理論からブルデューのハビトゥス概念へ」（グンター・ゲバウアー）
③「パフォーマーとしての俳優と教師－新しい教育方法の構築を意図して」（広瀬綾子）
④「asexuality のドラマトゥルギー」（三宅大二郎）
⑤「男性同性愛者のカミングアウトをめぐるドラマトゥルギー」（高田賢）
⑥「心理療法という舞台－裏舞台の機能と舞台の変容」（上條史絵）
⑦「特別支援学校における「違和」と「調和」」（神徳圭二）
⑧「生野民族文化祭のドラマトゥルギー－在日コリアンによる「居場所」と「本当の自分」の探求の試み」（金子真紀）
⑨「教育現場と臨床現場をつなぐもの－オーディエンス実習の構想」（中嶋尚子）
⑩「舞台の多重化について」（藤田雄飛）
⑪「ニホンザルの子の遊び場面における舞台の展開」（上野将敬）

なお、以下の二つの研究成果については、いくつかの理由によりこの出版計画から除外した。
①「学校という舞台－中学校に見られる公開授業のドラマトゥルギー」（高松みどりほか）。この研究成果については、研究倫理の観点から出版を見合わせることとした。
②「児童自立支援施設における学校教育の役割－学校教員と施設職員の語りから」（高田俊輔）この研究成果は、国際学会誌への掲載を目指して投稿し審査結果を待っている段階にあるため、著書（論文集）には収録しないこととした。ただし、学会誌への掲載時期によっては、学会からの承諾を得た上で、論文集に組み込む可能性もある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計６件）
①広瀬綾子、〈教員研修モデルカリキュラム開発プログラム〉の一環としての演劇の手法を用いたワークショップ、関西教育学会年報、査読無、38 号、2015、76-80①藤田雄飛、自律と他律の舞台論、教育基礎学研究、査読有、10 巻、2013、41-56
②岡野亜希子、宮川幸奈、山岸賢一郎、藤田雄飛、石村華代、〈ふり〉の教育哲学 2.5、教育基礎学研究、査読有、12 巻、2015、59-75
③佐々木暢子、京極重智、「舞台」というメタファーの射程－共同研究「教育と福祉のドラマトゥルギー」における課題と展望、大阪大学教育学年報、査読無、19 巻、2014、17-30
④京極重智、「子ども」と「認知症高齢者」を結びつけるものとしての「パフォーマンス」－介護等体験に於いて生じうる体験を端緒として、大阪大学教育学年報、査読無、19 巻、2014、3-15
⑤清水優華、広瀬綾子、誌上レポート　演劇と教育シリーズ Vol.5〈検証ワークショップ③〉自分とは違う個性を認め何かを共有しともにやり遂げる、join（公益社団法人日本劇団協議会機関紙）、No.81 、 2014 、43-45
⑥宮川幸奈、土戸敏彦、岡野亜希子、山岸賢一郎、京極重智、藤田雄飛、〈ふり〉の教育哲学 1.5－九州教育学会ラウンドテーブル報告と今後の展望、教育基礎学研究、査読有、11 巻、2013、61-75

〔学会発表〕（計２７件）
①藤田雄飛、環世界から舞台へ、九州教育学会第 67 回大会（名桜大学）、2015.12.6
②藤川信夫、ゴッフマンのドラマトゥルギーに対する修正点、「教育と福祉のドラマトゥルギー」シンポジウム（大阪大学）、2015.10.31
③高松みどり、古川ルミ、舞台としての学校－ある中学校における公開授業のドラマトゥルギー、「教育と福祉のドラマトゥルギー」シンポジウム（大阪大学）、2015.10.31
④上條史絵、心理療法という舞台－裏舞台の機能と舞台の変容、「教育と福祉のドラマトゥルギー」シンポジウム（大阪大学）、2015.10.31
⑤高橋陽一、模擬「患者参加型」医療面接実習Ⅱおける「先取り的方法」としてのロールプレイ、「教育と福祉のドラマトゥルギー」シンポジウム（大阪大学）、2015.10.31
⑥高田俊輔、児童自立支援施設における「教

育」と「福祉」の隔たり、「教育と福祉のドラマトゥルギー」シンポジウム（大阪大学）、2015.10.31
⑦クリストフ・ヴルフ、ミメーシスのプロセスにおける身体知の創造、「教育と福祉のドラマトゥルギー」シンポジウム（大阪大学）、2015.10.31
⑧グンター・ゲバウアー、ゴッフマンの演劇的行為の理論からブルデューのハビトゥス概念へ、「教育と福祉のドラマトゥルギー」シンポジウム（大阪大学）、2015.10.31
⑨広瀬綾子、ピッコロシアターにおける演劇教育「ピッコロ演劇学校」－秋浜悟史の演劇教育方法論を中心に、日本教育方法学会第 51 回大会（岩手大学）、2015.10.10
⑩高田俊輔、佐々木暢子、教育と福祉の隔たり－幼児教育と児童福祉の現場から、日本教育学会第 74 回大会(お茶の水女子大学)、2015.8.29
⑪上條史絵、身体という居場所－euphoria、日本ユング心理学会第 4 回大会（京都文教大学）、2015.6.7
⑫TAKADA, Shunsuke, The Role of Education in the Children's Self Reliance Support Facility, Asian Link of Philosophy of Education Winter Seminar (Chiayi University), 2015.1.24
⑬高橋陽一、模擬患者に対する「共感」をめぐって、第 7 次世代医療教育研究会（鳥取大学）、2014.11.30
⑭中嶋尚子、教育方法としての「振り付け」－ある新卒者の"フリーズ"現象から、日本看護科学学会第 34 回学術集会（名古屋国際会議場）、2014,11.29
⑮京極重智、人間形成論の視点から見た「老い」、関西教育学会第 66 回大会(滋賀大学)、2014.11.16
⑯藤田雄飛、模倣・鏡・〈ふり〉、教育基礎学研究会（九州大学）、2015.9.20
⑰藤田雄飛、〈ふり〉の存在論、日本教育学会第 73 回大会（九州大学）、2014.8.24
⑱中嶋尚子、新たな倫理教育方法としてのオーディエンス実習－倫理規範から相互行為秩序へ、日本漢語研究学会第 40 回学術集会（奈良県文化会館・奈良県新公会堂）、2014.8.23
⑲神徳圭二、「教育」と「福祉」の概念のとらえなおし、日本教育学会第 73 回大会（九州大学箱崎キャンパス）、2014.8.22
⑳藤川信夫、京極重智、佐々木暢子、高田俊輔、神徳圭二、ラウンドテーブル 6：「教育」と「福祉」概念の捉え直し－「教育」と「福祉」が交差する場面に着目して、日本教育学会第 73 回大会（九州大学）、2014.8.22
㉑岡野亜希子、宮川幸奈、山岸賢一郎、藤田雄飛、石村華代、ラウンドテーブル 4：〈ふり〉の教育哲学 2.0、日本教育学会第 73 回大会（九州大学）、2014.8.22
㉒京極重智、「認知症高齢者の世界」再考、日本保育医療社会学会第 40 回大会（東北大学）、2014.5.18
㉓高橋洋一、SP 参加型実習における「失敗」場面の会話分析、日本医学教育学会第 46 回大会（和歌山県立医科大学）、2014.7.18
㉔森みどり、古橋紗人子、前川頼子、芝生という保育環境に関する一考察、日本保育学会第 67 回大会（大阪城南女子短期大学、大阪総合保育大学）、2014.5.17
㉕高橋洋一、インフォームド・コンセントと日本の医療文化、「いのち」の尊厳を考える研究談話会（国立台湾大学）、2015.1.9
㉖広瀬綾子、「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の一環としての演劇ワークショップ、関西教育学会第 65 回大会（和歌山大学）、2013.11.16
㉖京極重智、教育的関係に関する一考察、日本教育学会第 72 回大会（一橋大学）、2013.8.30
㉗京極重智、施設職員の「パフォーマンス」に関する一考察－認知症ケアに見られる「スイッチの移ろいやすさ」に注目して、第 39 回日本保健医療社会学会大会（東洋大学）、2013.5.19

〔図書〕（計３件）
①志水宏吉、栗本英世、河森正人、藤川信夫他、共生学が創る世界、大阪大学出版会、2016、289
②小笠原道雄、森川直、藤川信夫 他、福村出版、教育哲学の課題「教育の知とは何か」－啓蒙・革新・実践、2015、407
③藤川信夫 他、大阪大学出版会、教育／福祉という舞台－動的ドラマトゥルギーの試み、2014、270

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
藤川信夫（FUJIKAWA, Nobuo）
大阪大学・大学院人間科学研究科・教授
研究者番号：１０２１２１８５
(2)研究分担者
中嶋尚子（NAKAJIMA, Naoko）
千葉科学大学・看護学部・講師
研究者番号：４０３４７３７３
藤田雄飛（FUJITA, Yuhi）
九州大学・人間・環境学研究院・准教授
研究者番号：９０５８０７３８